

ニカラグァ国・コスタリカ国の
漁業概要

昭和46年1月

海外技術協力事業団

Overseas Technical Cooperation Agency

JICA
617
89
EX
LIBRARY

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 28	617
登録No. 02528	89
	EX

序

海外技術協力事業団は日本政府の委託を受けて、東南アジア等開発途上国に対して、専門家派遣、技術研修員の受入れ、海外訓練センターの設置、開発調査等の方法で技術協力を実施しております。

これら事業のうち専門家派遣事業により開発途上国に派遣された専門家は昭和29年我国が技術協力を開始して以来1,800名を越え、派遣国は、アジア、アフリカ、中南米地域57カ国に及んでおります。

本書は中南米技術協力計画により昭和45年10月25日より昭和45年11月29日まで、ニカラグア、コスタ・リカ両国に派遣され、両国の漁業振興調査を行つた調査団の調査結果に基づいて、これら両国の漁業の概況をとりまとめたものであります。

本書が広く利用され、開発途上国の経済発展に対し、いささかでも貢献するところがあるならば幸甚に存じます。

昭和46年1月

海外技術協力事業団

JICA LIBRARY



1053023[6]

目 次

は し が き	1
I ニカラグアの漁業概況	1
1. 国 の 概 要	1
(1) 位 置	1
(2) 面 積	1
(3) 地 勢	1
(4) 気 候	1
(5) 人 口 ・ 人 種	2
(6) 歴 史	2
(7) 経 済	2
I) 主要国内産業	2
II) 貿易および国際収支	3
III) 外 国 為 替	3
IV) 外 国 投 資	3
(8) わが国との関係	3
2. 漁 業	4
(1) 概 況	4
(2) 漁業企業体数と職人的漁民の数	5
(3) 漁船・漁船修理施設・漁港	6
(4) 漁 業 生 産 量	8
(5) 大平洋岸の主要漁業	10
I) えびトロール漁業	10
II) 釣・刺網漁業	13
III) えび待網および魚類延干網漁業	13
(6) 大西洋岸の主要漁業	14
I) えびトロール漁業	14
II) いせえびかど漁業	14

Ⅲ) 小えび漁業	16
Ⅳ) かめ漁業	16
(7) ニカラグア湖の漁業	17
(8) 主要水産物の加工・流通	18
(9) 行政と施策	26
Ⅰ) 行政機構	26
Ⅱ) 当面の施策	26
Ⅱ コスタ・リカの漁業概況	27
1. 国の概要	27
(1) 位 置	27
(2) 面 積	27
(3) 地 勢	27
(4) 気 候	27
(5) 人 種, 人 口	27
(6) 歴 史	28
(7) 政 治	29
(8) 経 済	29
(9) 国 際 収 支	29
(10) 外国為替制度	29
(11) 外 国 投 資	29
(12) 中米共同市場	30
(13) わが国との関係	30

2. 漁 業 30

(1) 現 況 30

① 太 平 洋 側 30

② カリブ海（大西洋）側 32

③ 内 水 面 32

(2) 漁業経営体等 33

① 会 社 33

② 職人的漁民（零細漁家） 33

(3) 漁 船 34

① 産 業 的 漁 業 34

② 職 人 的 漁 業 34

(4) 漁 獲 量 35

(5) 漁獲物の利用配分 36

(6) 主要水産物の輸入および輸出 36

(7) 主要漁業の現状と問題点 37

① え び 漁 業 37

② いせえび漁業 38

③ まぐろ漁業 38

④ 職 人 的 漁 業 39

(8) 水産行政機関および関係行政機関 41

（別紙1）コスタ・リカの漁業企業体等一覧表 43～44

（別紙2）コスタ・リカ太平洋岸魚種別，月別水場量（1969） 47～48

（別紙3）種別，年別えび水場量（1952～1969） 49

（別紙4）コスタ・リカ太平洋岸えび漁業資源分布図 50

は し が き

この資料は、ニカラグアおよびコスタ・リカの要請にもとづき、両国の漁業振興計画のために海外技術協力事業団が派遣した4名の専門家が帰国のうえ詳細に報告した内容を中心に両国漁業の概況について要約したものである。

なお、派遣期間および専門家の氏名・所属は、次のとおりである。

期 間	和和45年10月25日から同年11月29日まで
氏名・所属	大山 龍 蔵 水産庁調査研究部研究第一課
	浅野 好 治 同 生 産 部 海洋第二課
	前 波 雅 同 漁 政 部 企画課
	宇賀神 牧夫 日魯漁業協トロール事業本部南方 トロール部

I ニカラグアの漁業概況

4) 国の概要

(1) 位置

ニカラグア共和国は、中米の中部に位置して北側はホンジュラスに接しているほか、一部はフオシセカ湾をはさんでエル・サルバドルにも面し、一方南はコスタ・リカに隣接している。その緯度・経度は、太平洋岸において $13^{\circ}-00'N$ 、 $87^{\circ}-20'W$ の点から $11^{\circ}-10'N$ 、 $85^{\circ}-42'W$ まで、大西洋岸では $15^{\circ}-N$ 、 $85^{\circ}-10'W$ の点から $10^{\circ}-56'N$ 、 $83^{\circ}-39'W$ の点にいたっている。

(2) 面積

国の面積は、 $148,000$ 平方キロメートルで中米5カ国中最大であり、わが国の面積の約40%、すなわち北海道と九州を合わせた面積にほぼ匹敵する。

(3) 地勢

地勢の概要は、国の中央部を中米山脈が南北に走つて東西に2分し、大西洋側は原始林におおわれ、その間を水量の多い河川がカリブ海に流入しており、太平洋側は一般に山岳性ではあるが、肥沃な平原にも恵まれ、また、琵琶湖の約10倍の広さを有するニカラグア湖のほか、マナグア湖等の湖沼も多く、湖沼の面積は国の面積の約12%に達している。

(4) 気候

この国の気候は、北緯11度から15度という緯度が示すように熱帯性気候で、海岸地帯ではとくにそれが著しく、5月から10月の間は雨季となる。気温の年間全国平均は $24^{\circ}C$ 、湿度は同じく85%となつている。首都マナグア市は海拔55米にあり、12月および1月の月平均気温は $27^{\circ}C$ で最も低い4月および5月には $30^{\circ}C$ で最高の月となり、降雨量では、9・10月が最も多く、12月から4月にかけてはほとんど

ど雨が降らない。

(5) 人口・人種

1968年におけるこの国の人口は1,842千人で、対前年増加率は3.4%となつている。170年における人口の概数は約2,000千人といわれており、この数字を基にすると1平方キロ当たり13.5人の密度となる。また、農業人口はE.A.O.の資料によると、168年において58%を占めている。

人種構成は、スペイン人と原住インディオとの混血が77%、アフリカ黒人9%、純粋インディオ4%であり、その他がスペイン、ヨーロッパ系の白人となつている。

(6) 歴史

1502年コロンブスがこの地に到達しスペインの領有を宣したが1644年にはグアテマラ大守領に編入された。その後19世紀初頭以来独立運動が急速に活発化し、1821年に独立を達成した。しかしながら親スペイン系市民との武力衝突がしばしば発生して内乱が連続し、その間米国の派兵を伴うような事態も発生したが、1936年アナスタンオ・ソモサが大統領に選出されて後、一応の安定をみた。

(7) 経済

1) 主要国内産業

ニカラグア中央銀行の資料による1965年の国民総生産額3,691百万コルドバ(約1900億円)で、主要産業別内訳は、農業が36.8%で最も多く、主な産物はとうもろこし、棉花、砂糖、コーヒー、バナナ、胡麻、米、牧畜(牛)となつている。次いで商業の20.1%、工業14.1%で、工業の主要業種は棉花関係の繊維工業およびコーヒー、砂糖、食肉に関連した食品加工業である。次いでその他のサービス業11.4%、運輸業5.1%、その他(中央政府、建設業、金融業、公共事業、鉱業)が12.5%となつている。

なお、1人当り国民総生産は65年に323ドル、69年には346ドルであつた。

(II) 貿易および国際収支

この国の主な輸出品目は棉花、コーヒー、食肉等の農牧産品で、主として日本、米国、西独、コスタ・リカ、英国向けとなつている。また、輸入は機械類、化学工業品、金属製品、自動車・部品、食料品が主なもの、これらは米国、西独、日本、英国等から輸入されている。貿易収支は一般に黒字であるが、貿易外収支の恒常的赤字が大きく、これを資本取引で補つているのがこの国の国際収支の概況である。

(III) 外 国 為 替

ニカラグア通貨の単価は1米ドル当り7コルドバで安定しており、外貨の持込み、持出しも自由で、現在のところ実質的な為替管理は全く行なわれていない。なお、1964年からIMFの8条国になつてゐる。

(IV) 外 国 投 資

資本の国際間移動は、外国為替法および外国投資法のもとに自由である。登録された外資は、元本、利子、利潤の対外送金および投資のために輸入された物資の再輸出の特典が与えられる。

なお、外資比率は100%自由である。

(8) わが国との関係

わが国とニカラグアとは、現在互に大使を派遣して友好関係が続いてゐる。経済関係では、わが国は棉実、綿糸を輸入し、綿製品、自動車、電気器具、チューブ、鉄鋼、ラジオ、テレビ等を輸出しているが、金額ではわが国側の圧倒的入超が続いている。

2. 漁 業

(1) 概 況

太平洋岸の海岸線の長さは200哩たらずと短かく、かつ、大陸棚の幅もせいぜい距岸20～30哩のうへ海岸近くは一般に岩場が多い。南米大陸太平洋岸を北上するフンボルト海流はこの地域沖合まで達すると言われている。

北部のフオンセカ湾は、面積そのものは広くはないが、水深浅く海岸線の湾曲に富み、魚類、えび等の水産資源も豊富であるといわれている。また、南部のコスタ・リカに接する海域の岩場にはバルゴ(たいの類)メロ(はたの類)及びアトゥン(まぐろ)、ボニイト(はがつお)等が多い。それらの間の海底の平坦な海域では近代的漁法によるえびトロール漁業が行なわれている。沿岸小規模漁業は主としてコリント(Corinto)の周辺以北でカヌーを利用して釣その他の漁法で行なわれている。

大西洋側の海岸線の長さは300哩ちかくあるが目ぼしい湾入がなく単調である。ただ、ブルーフィールドズ(Bluefields)東方沖合約40哩のところにはコーン(Corn)諸島が存在する。大西洋岸の中部以北には北東沖合にかけて大陸棚がかなり広がっているが珊瑚礁が多い。東方カリブ海を西進した海流はブルーフィールドズ沖合で南北に分れ、一方は大陸棚上を北または北東流し、他方は沿岸沿いにコスタ・リカ沖に向うといわれている。

現在行なわれている漁業としてはブルーフィールドズ沖合およびその北方海域の沿岸近くの珊瑚礁の間を利用したえびトロール漁業が最大のもので、次いでコーン・アイランド、ブルーフィールドズを基地としたいせえびかご漁業がある。特異な漁業としては海がめの採捕があげられる。えび漁場およびいせえび漁場の一部を除いて大陸棚の大部分は未調査、未開発の状態にある。また、ラグーン地帯では小えびの漁獲が行なわれているが、この汽水地域の調査も手がつけられていない。

(2) 漁業企業体数と職人的漁民の数

水産製品の輸出ライセンスを有する企業体数は、太平洋岸大西洋岸およびニカラグア湖を合わせて1970年10月末現在24ある。そのうち太平洋岸には5企業体があるが、稼働中の3件はコリント1、サン・フアン・デル・スールズであり、その製品はいずれもえびおよび魚類となっており、休業中の2件はプエルト・ソモサ(Puerto Somoza)に工場がある。大西洋岸には18の企業体がある。ブルーフィールド周辺の5社のうち3社の製品はえび、いせえびおよび魚類であり、1社はえび、いせえび、魚類およびかめ、他の1社はかめのみであり、コーン・アイランドの5社のうち4社はいせえびで、他のえび、魚類を目的とする1社は休業中である。

プエルト・カベラス(Puerto Cabezas)の4企業のうち1件は小えび(Ohacalines)、2件はえび、いせえびおよび魚類であり、他の1件はかめのみで休業中である。ラグーナ・デ・ベルラスの3件はいずれも小えびを対象にしている。ニカラグア湖畔のグラナダ(Granada)にある1社は魚類(淡水産のこぎりざめ)を対象にしている。以上を総合すると、製品の輸出ライセンスを有する24企業体のうち少なくとも4件は休業中である。

これらの企業のうち、えびおよびいせえびの漁業とその陸上工場に従事する人数は1,525人で、うち漁船乗組員593人、陸上加工工場703人、事務関係96人、その他133人となっている。

また、これらの企業体のうち、外国資本が入っている会社はサン・フアン・デル・スールの1社、ブルーフィールドの2社で、計3社であり、米国系2社、グアテマラ系1社となっている。

職人的漁民の数は、太平洋岸に340人、大西洋岸に715人合わせて1,055人となっているが、それらの漁民の従事する漁業の種類等の詳細は明らかではない。

(3) 漁船・漁船修理工場・漁港

えびトロール漁業の操業は1隻ごとに操業許可を受けた漁船によることになっており、その許容隻数は陸上工場を有する企業体ごとにその処理能力等を勘案して定められている。その現行総隻数は220隻で、うち、太平洋岸103隻、大西洋岸117隻となっている。操業する漁船のなかには企業体自身が所有するニカラグア国籍船のほか、操業漁船のライセンス権を有する企業との契約によつて入漁する外国籍漁船が含まれている。ニカラグア国籍船が少ない現状においては(30~40隻)、ニカラグア沖漁場が豊漁との情報が伝わると、他国沖で操業中の漁船でも急遽その漁場を切揚げてニカラグア沖へ集中することになる。例えば'68年の例では4月の操業隻数は69隻と年間の最低を示しているが、11月には113隻が操業しており、また、'69年には1月が最大の123隻で、8月がもつとも少く83隻であつた。陸上加工工場の安定操業のためにはコンスタントに加工原料を供給する自社船の確保が必要であり、このことは製品コストを低く安定させ企業経営を有利に導く方途でもある。このため、自国船団の形成がこの国のえびトロール漁業の重要な課題となつている。しかしながら、漁船入手のための資金や船長等熟練技術者の養成等も付随しておこなう解決すべき問題であり、また漁場の豊度とも密接な関連がある。

えびトロール漁船の大きさは55 feet から88 feet 程度まであり、いずれもダブルリガー方式で、1隻の乗組員は4~6名である。

えびトロール漁船も含めて、各分野ごとの漁船努力の現状は表1のとおりである。

表1 漁 船 数

	太平洋岸	大西洋岸	計
えびトロール漁船	34(103)	65(117)	99(220)
いせえびかご漁船	—	63	63
たいつり漁船	15	—	15
職人的漁民(動力船)	75	5	80
漁船(その他)	65	405	470
計	189	538	727

注1. えびトロール漁船およびいせえびかご漁船は1969年における月ごとの平均操業漁船数であり、それ以外は稼動在籍漁船数である。

2. ()内は許可枠の隻数である。

えびトロール漁船の建造は、ニカラグア国内に造船所がないのでメキシコ、コロンビア等で行なわれ、その建造費の例として、70 feet 335 HPの高速機関付きの木船で78,000ドル、これに冷凍機をつけると82,000ドルである。その耐用年数は7～8年といわれている。

大西洋岸ブルーフィールドのPESOANIOA社はえびトロール漁船3隻分の上乗設備を有しており、自社所属船が上乗しないときは他社船の上乗も行なうが、同社以外の漁船はパナマ等のドックへ廻航する場合も多いようである。太平洋岸においてはコリントのALINSA社が上乗設備を有している。

サン・フアン・デル・スールにおけるたい釣漁船程度のものは、地元において建造する能力があり、その建造費は1隻10,000ドル程度である。

漁港として利用されているのは太平洋岸においては北部のコリント及び南部のサン・フアン・デル・スールである。コリントはこの国最大の

貿易港で立派な岸壁もあつて大型貨物船が横付けできるが、漁船は自社の冷凍加工工場に接する海岸に木製の機橋を作り横付けのうえ水揚げおよび補給を行なっている。サン・フアン・デル・ヌーヴの港は南西に向つて大きく口をあけた天然の港ではあるが9月10月には沖からの風浪のため港内碇泊が困難になることもあるという。港の沖から向つて右端に輸出入貨物の倉庫と岸壁の設備もあるが、干満差が10フィートもあり、漁船の荷役には不便であるし、通常漁船は沖がかりしている。

大西洋岸の漁業基地としては、ブルーフィールズ周辺が最も大きく、プエルトカベサスおよびコーン・アイランドも使用されている。ブルーフィールズは南東に開いた湾であるが一般に水深浅く、主要漁業であるえびトロール漁船は湾内に分散して設置されている各社の冷凍工場に接して陸岸沿いに棧橋をだして横付けしている。なおブルーフィールズには、大型貨物船が入港して荷役できる岸壁がエル・ブルフ (El Bluff) にある。

(4) 漁業生産量および漁業生産額

最も産業価値の高いえび (Oamaru) の無頭冷凍生産量は、'67年5,524千ポンド、'68年6,151千ポンド、'69年には7,258千ポンドであつた。'69年の生産金額は7,099千ドルで、同年におけるえびの輸出は7,469千ポンド、6,138千ドルであつて生産のほとんどが輸出向けということになる。

いせえび (Langosta) は、'67年に405千ポンド、750千ドルの生産であつたが、'69年には、355千ポンド、656千ドルと減少傾向を示している。このいせえびについても'69年にはその大部分である321千ポンドが輸出されている。

小えび (Chacalín) をボイルして乾燥させたものの生産量は、'68年には前年の2.7倍に伸びて930千ポンドとなり、'69年には

1,014千ポンドに達しその金額も406千ドルとなつている。(表2)

職人的漁民による魚種別生産は明らかではないが、総生産の数量では4,500千ポンド、金額では約530千ドル(3,700千コルドバ)となつている。

表2 主要水産物の生産と輸出

		生 産		輸 出	
		数量千ポンド	金額千ドル	数量千ポンド	金額千ドル
え び (無頭冷凍)	1,967	5,523.4	4,971	5,234.4	4,196
	1,968	6,151.5	5,382.6	5,571.9	4,646.4
	1,969	7,258.5	7,099.6	7,469.3	6,138.3
いせえび (同上)	1,967	405	750	384	568
	1,968	367.5	698.3	338.9	492.6
	1,969	355.1	656.8	321.4	459.8
小えび (乾燥)	1,967	346	20.7	55	31
	1,968	930.9	372.2	116.4	87.7
	1,968	1,014.9	406.0	125.9	84.4

Nicaragua

表 3 水産物の製品別輸出 (1969年)

	輸出量千ポンド	輸出金額千ドル
えび(無頭冷凍)	7,469.3	6,138.3
いせえび(同上)	344.8	518.0
小えび(乾燥)	125.9	84.4
魚(冷凍)	138.3	19.7
“(ツイレ)	37.8	5.3
“(乾燥)	12.1	1.5
かき(冷凍)	3.6	0.7
かめの諸製品	250.1	25.1
とかげの皮	9.3	7.1
その他	0.2	0
計	8,391.4	6,800.1

(5) 太平洋岸の主要漁業

1) えびトロール漁業

太平洋岸におけるえびトロール漁業は、コリントおよびサン・フアン・デル・スールにある2つの漁業会社の所属船によつて行なわれており、1970年10月末の操業隻数は37隻であつた。漁場はニカラグア沖の太平洋岸全域に及ぶが沿岸近くの岩場を除き、距岸5～10哩、水深18～240 feet (主として100 feet まで)の場所であり、周年続けて操業するが盛漁期は9月～1月である。操業時間は主として昼間であるが、時として昼夜継続して曳網することもある。1航海の日数は、60 feet 前後の小型船で8～10日、70 feet 前後の大型船になると2週間である。

1隻当りの年間漁獲量は、無頭製品で100,000ポンド程度であ

Nicaragua

る。入網する量の85～90%はえび以外の魚類等であり、一部の魚以外はほとんど利用されないで海中に投棄される。

漁獲されたえびは揚網の都度船上で頭部を除去して氷蔵し帰港後、陸上の冷凍工場に運んだうえホワイト、ピンク、ブラウンの種類別およびサイズ別に選別し(選別機を使用する)、5ポンドごとに凍結する。最近では殻むき、背わたぬきのものや、1尾ごと凍結する形態のもの(IQF)もつくられている。サン・フアン・デル・スルールの工場では人件費が安いので殻むき作業も手作業で行なっている。

主要販路は、その90%までが米国向けで、サン・フアン・デル・スールからは冷凍トラックでコリントまで運び船積みの上で輸出される。

えびトロール会社は、陸上冷凍工場を有しているのも商品価値のある魚類のフイレー冷凍加工をも併せ行なうこともあり、これらの原料となる魚は、自社所属船によるのみならずバルゴ(たいの類)、メロ(はたの類)、テブロン(さめ)等を一般漁船から買入れることもある。

表4 太平洋岸で獲れるえびの種類

商品名または通称	学 名
ホ　ワ　イ　ト	<i>Penaeus occidentalis</i> (Streets)
	<i>P. stylirostris</i> (Stimpson)
	<i>P. vennamei</i> (Boone)
ブ　ラ　ウ　ン	<i>Penaeus californiensis</i> (Holmes)
ピ　ン　ク	<i>Penaeus brevirostris</i> (Kingsley)
小　え　び	<i>Trachypeneus byrdi</i> (Alcock)
	<i>Xiphopeneus riveti</i> (Bouvier)
	<i>Protrachypeneus precipua</i> (Burkenroad)

表5 太平洋岸でみられる主な水産物

1	Corvina blanca (にべの類)	15	(がざみ)
2	Corvina amarilla (")	16	(たちうお)
3	Pargo (たいの類)	17	(うますけはぎ)
4	Panchos	18	Calamar (いか)
5	Babosa	19	Mero (はた)
6	Macarela (さわら)	20	Roncador (ふぐ)
7	Robalo (すずきの類)	21	Tiburón (しゅもくざめ)
8	Langosta (いせえび類)	22	Huicho (うみなます)
9	Langostina (" 類)	23	Anguila (うなぎかみなごの類)
10	Baut caugrejo (まんじゆがに)	24	Atun (まぐろ)
11	(しやこ)	25	Bonito (はがつお)
12	(まながつお)		
13	lenguado (ひらめ)		
14	lenguado (かれい)		

注(1) 1～10は、コリントにてえびトロール漁船の船長から聞きとつたもの

(2) 11～21はコリントにてえびトロール漁船に乗船した専門家が実際に見たものもので(1)以外のもの

(3) 22～25はサン・フアン・デル・スールにおいて聞きとつたもので(1), (2)以外のもの

II) 釣・刺網漁業

サン・フアン・デル・スールには、主としてバルゴ（たいの類）を獲ることを目的とする長さ24～35 foot 程度の漁船が15隻いる。

漁法は、主として手釣り、夜間集魚灯に集るいわしを捕食するために海底近くから2尋程度浮上するバルゴをカラマリ（いか）を餌料として釣獲するもので、年間を通じて操業する。通常1日～2日の航海で、1回の出漁による漁獲量は平均して約1,000 ポンド程度である。バルゴの重量は1尾当り5～12 ポンドである。漁獲した魚は内蔵を除去して氷蔵して持帰り小売業者に売渡すが一部は主要消費地であるマナグアへ直送するものもある。

手釣り漁法のほかナイロン製の底刺し網も使用されるが、手釣り漁法に比して漁獲能率が高く、そのため魚価を圧迫するおそれがあるといわれている。

漁獲の対象になる他の魚種としてはメロ（はたの類）、アトウン（まぐろ）、ボニト（はがつお）がある。

III) えび待網および魚類建干網漁業

フオンセカ湾に流入する河口にあるプエルト・モラサン（Puerto Morazan）には約100名の漁民がおり、漁船数カヌー約100隻（うち15隻は船外機付き）がある。6月から11月の雨期の間は河口の水深3米程度のところに待網を設置して、水流にのって流れる小えびを漁獲し、ボイルしたのち塩をまぶして製品とし、麻袋につめて主としてエル・サルバドルへ輸出している。1網の漁獲量は1日平均約150 kgである。また、12月から5月にかけては同じく河口に建干網を設け、バルゴ、メロ、ロルビーナ、ロバロ（すすきの類）を漁獲し、内蔵を除去して塩づけののち天日乾燥してやはりエル・サルバドルへ輸出している。

(6) 大西洋岸の主要漁業

1) えびトロール漁業

ニカラグアの漁業のなかでは最も重要な地位を占めている大西洋岸におけるえびトロール漁業は、ブルーフィールド沖からフエルト・カベサスにかけての距岸5～15海里で主として夜間に操業され、ピンク、ブラウン系のえびが主な対象になっている。1970年11月上旬における操業船数は約60隻前後である。

69年は豊漁で成績の良い船は月30,000ポンドの漁獲があつたが、70年は悪く、10月現在で月平均4,000～5,000ポンドにすぎない。

漁獲物の処理の方法については太平洋岸のものと大差ないが、ただ太平洋岸の加工工場は小型えびも冷凍加工して輸出するが、大西洋岸においては小型えびを冷凍加工しない点が異なる。

表6 大西洋岸で獲れるえびの種類

商品名または通称	学 名
ホ ウ イ ト	<i>Penaeus schmitti</i> (Burkenroad)
ブ ラ ウ ン	<i>Penaeus aztecus</i> (Ives)
ピ ン ク	<i>Penaeus duorarum</i> (Burkenroad)
〃	<i>P. brasiliensis</i> (Latreille)
小 え び	<i>Xiphopenaeus kroyeri</i> (Heller)

II) いせえびかど漁業

ニカラグアのいせえびかど漁業は現在のところ大西洋岸においてのみ存在し、その主力はコーン・アイランドを基地とする50隻で、他にブルーフィールドのブー社およびベスカニイカ社が15隻で合計65隻が操業している。これらの漁船は長さ18～25 feetの小型

のものが主体であるため出漁できる漁場も限られた近くのみ依存し
ており、1隻当りの漁獲量も減少傾向にある。そのため INFONAO
は大隈棚における未開発の漁場と適した漁法・漁具に関する調査を
実施中であるが、この調査にあわせて、いせえびの生態の研究をも行な
う必要があると指摘されている。また、このいせえび漁業経営体の大
部分が小規模漁業者であることも漁船を大型化するための資金面で困
難な問題となつてゐる。

漁獲されたいせえびは頭部を除去して主として輸出に向けられてい
る。いせえびは乾燥金額ともカマロン(えび)にははるかに及ばない
が、カマロンに次いで主要な輸出水産物となつてゐる。

(1) Table 2. (continued) Catch and production of Isopod (1,000 tons)
表7 いせえびかご漁業の操業隻数と生産量：1,000ポンド

月	1967年			1968年			1969年		
	漁船数	生産量	1隻当りの生産量	漁船数	生産量	1隻当りの生産量	漁船数	生産量	1隻当りの生産量
1月	40	43	1.08	59	44.6	0.76	59	41.5	0.70
2月	48	29	0.60	59	28.5	0.48	61	30.0	0.49
3月	46	22	0.48	61	21.9	0.36	59	36.4	0.61
4月	45	22	0.49	59	23.1	0.39	58	17.9	0.30
5月	37	2.8	0.76	64	15.7	0.25	60	17.9	0.30
6月	47	3.6	0.77	47	13.3	0.28	66	20.7	0.31
7月	46	4.8	1.04	49	20.0	0.41	63	27.0	0.42
8月	53	4.6	0.87	48	33.5	0.70	66	24.6	0.37
9月	57	31	0.54	53	32.1	0.61	64	27.7	0.43
10月	55	19	0.35	51	24.1	0.47	59	27.2	0.46
11月	68	24	0.41	54	43.9	0.80	72	36.4	0.50
12月	64	57	1.06	60	66.8	1.11	68	47.8	0.70
計(平均)	48	40.5	0.84	55	36.75	0.68	63	35.1	0.56

III) 小 え び 漁 業

ラグーナ・デ・ベルラス (Laguna de perlas) を中心とするベルラス河口、ラフワ河口、ウオンタ河口のラグーン地域ではチンチヨーレロ (de chinchorrero 投網) で、シーボツブと称する小えび (Ohacalínes) を漁獲している。この地域には約 600 人の漁夫が 300~400 隻のカヌーを用いてこの漁業に従事しており、1 年のうち最も良く獲れる時期は 5 月と 9・10 月の 2 回あり、7 月は最も漁獲が少ない。

漁獲したえびはボイルしたのち乾燥し、皮をむいて製品としている。今迄の調査結果では、漁獲される小えびの 90% は成長してえびトロール漁業の漁獲対象になるホワイト・シリンプ (*Penaeus Schmitti*) で、残りの 10% がそれ以上大きくならない小えび (*Xiphopenaeus Kroyeri*) とされており、えび資源の経済的利用に関して論議を呼んでいるところである。

IV) か め 漁 業

かめを製品にする工場のライセンスを有する会社はブルーフィールドとフエルト・カベサスに各 1 社存在する。かめの漁場は、ブルーフィールドの例によると、100 哩~120 哩北上したところで、その捕獲方法は深さ 10~12 呎の網を浮設し、これにてん絡させて漁獲する。

会社は漁夫からかめを買取つて解剖処理し、肉は冷凍して主として米国 (東海岸地方) へ輸出し、頭および骨はスープ用に国内に販売している。

なお、かめの採捕に関しては体重の制限が設けられている。それは輸出向けのかめを獲る場合は商業的規模で漁獲されるであろうと考えて資源保護の観点から体重 5.5 kg 以上のものでなければならないとされている。また、5 月 15 日から 7 月 15 日までは産卵期を保護するために採捕の禁止期間となつている。

(7) ニカラグア湖の漁業

面積約8,000平方キロメートル、最大水深約100メートルのニカラグア湖の本格的な開発はまだ行なわれておらず、のこぎりさめを刺網または釣で漁獲し、ワイレー係結する小規模な会社がグラナダに1社あるのみである。その製品はスーパーマーケット等へ卸されている。

表8 ニカラグア湖における商業上重要な魚種の学名

科	種	現地名	英名	備考
Carcharhinidae	<i>Carcharhinus leucas</i>	Tiburón	Bull shark	淡水産さめ
Pristidae	<i>Pristis perotteti</i>	Pez sierra	Sawfish	“ えい
Lepisosteidae	<i>P. Pectinatus</i>	Caepar	Qar	“ ガー
	<i>Lepisosteus tropicus</i>			
Pimelodidae	<i>Rhamdia managiiensis</i>	Barbudos	Catfish	なまずの類
	<i>R. banbara</i>			
	<i>R. nicaragiensis</i>			
Megalopidae	<i>Megalops atlanticus</i>	Sabalo	Tarpon	米国南部および西インド等に産する銀色のうろこのある大魚
Pomadasyidae	<i>Pomadasys grandis</i>	Roncador	Grouper	いさきに似た淡水魚
Centropomidae	<i>Centropomus</i> Sp.	Robalo	Snook	
Cichlidae	<i>Cichlasoma managiiense</i>	Chapote	Cichlids	
“	<i>C. dovii</i>	Chapote	“	南米アフリカ
“	<i>C. frierichstalii</i>		“	南アジア等に産する熱帯淡水魚。
“	<i>Cichlasoma citrinellum</i>	Mojarra	Cichlids	わが国ではキクラまたはテンブシーと称する。
“	<i>C. labiatum</i>	“	“	
“	<i>C. nicaragiense</i>	“	“	
“	<i>C. rostratum</i>	“	“	
“	<i>C. longimanus</i>	“	“	
“	<i>C. nigrofasciatum</i>	“	“	
“	<i>C. spilurum</i>	“	“	

(8) 主要水産物の加工流通

この国には水産物に関する生産地・消費地におけるまとまった卸売市場の組織がない。このことは主要水産物が冷凍されて輸出されること、また、国内消費にしても現在の流通量からは本格的な卸売機構を必要としないとも言えるかもしれない。加工方法にしても、缶詰は全く行なわれず、缶詰製品といえは輸入品にたよっている。極めて一部ではあるが塩干製品をすることもあるがこれも隣接国に対する輸出が主たる目的となつている。

1) えび

この国の主要水産物であるえび(カマロン)は、すべて陸上の加工場で無頭の殻つき、同殻むき・背わたむき、1尾ごとのIQFといったかたちで冷凍加工のうえ、その約90%は米国向けに輸出され、米国以外向けは微少である。残りの約10%が国内消費にまわされる。輸出は全体の80%までがブルーフィールドから船便で輸出されるほかコリントおよびエル・エスピノ(EL ESPINO)からもそれぞれ8~9%が輸出されている。

税関資料によれば'69年のえびの輸出量は7,469千ポンド、金額にして6,138千ドルであるから1ポンド当り0.81ドルとなる。これはトン当り約64万円にあたる計算になるが、この数字がどの程度実態をあらわしているか疑問に思われる。

国内の消費地は主としてマニラであり、スーパーマーケットの冷凍ケースで販売されるものも多いが、市内のマーケット内の卸売店等でも扱っている。それらの小売り価格は、ポンド当り11~15サイズのもので15コルドバ/ポンド=1,650円/kgであり、50程度の小さいサイズのもので5コルドバ/ポンド=550円/kgが相場のようにある。

II) い せ え び

いせえびの加工流通形態はえびとほぼ同じである。

III) 小 え び

水揚げした小えびは塩水でボイルしたのち天日で半乾燥し、直径約1.5メートル、長さ約3メートルの円筒形の金網に入れ、これをゆつくり回転させながら薪を燃した熱風を送つて乾燥させると殻は細片となつて網目からこぼれおち、えびの身だけの製品ができあがる。これらの作業は全く原始的に近い素朴な設備で行なわれている。

この製品の歩留りを仮りに20%としても、乾燥えびの年間生産量約1,000千ボンドから逆算して、漁獲量は約5,000千ボンドと計算される。

IV) 一 般 魚 類

一般魚類、ことに職人的漁民が漁獲する魚類の流通に関する資料は全く入手できない。これを知るためには各生産地を個別に調査する以外に方法はないようである。ただ、サン・フアン・デル・ヌールにおけるバルゴ釣漁業の例をあげれば、はらぬき頭付きで氷蔵された魚は、卸売りに1コルドバ/ボンドで売られ、ここから約120キロメートル離れた首都マナグアにおける小売値段では、頭をとり2.5コルドバ/ボンドとなつている。これがフイレーの冷凍品となるとスーパーマーケットで5.5コルドバ/ボンドで売られている。

魚類の生産地における生産者価格は、職人的漁民によるものも含めて一般に1コルドバ/ボンドとみれば大きな誤りはないようである。

表 9. 水産食品等の生産者価格および消費者価格

コルドバ/ポンド

生産者価格	消費者 価 格			
	マナグア市内 スーパーマーケット(1) 70.11.3	マナグア市内 スーパーマーケット(2) 70.11.8	マナグア市内 卸小売店 70.11.7	マナグア市内 マーケット内小売店 70.11.7
えび (無頭・冷凍)	5.50		5.00	
中 (" ")	9.50			
大 11~15 (" ")	15.75		15.00	
中 (" ")	9.00			
いせえび (" ")			14.00	
大 (" ")			4.40	
淡水えび (有頭・生)				
小	2.00			2.00
かに (活)				
コンチエネガラ 風 (生)	0.75以下		1.00	
アルマスハ あさり (")	1以下		2.00	
バルゴ た い (水産、頭付き)	1.00		無頭 2.50	無頭 2.50
" (フイレー・冷凍)	3.00	5.50		
せわら (頭付き、冷凍)	2.50			
かれい (")		4.50		
チブロン せ め (フイレー・冷凍)	1.50			
" (フイレー・生)				2.00
は た (フイレー・冷凍)	3.00~3.50			
イニロー、ティル (頭付き、冷凍)	3.00			
かめ肉 (冷 凍)	3.50~4.20	6.50		
か き (むき身、生)	0.5			
並		3.75		
にわとり (冷 凍)				
上 (")		5.50		
七 匹 鳥 (冷 凍)		4.50		
並		6.00		
牛 肉 (")				
上 (")		10.00		
塩干魚 (頭付き)	3.50			

優がこれにあてられている。ミカラグア沖としては太平洋岸のいせえび資源の開発調査が対象となっているが、いまのところ画期的な新漁場は発見されていない。なお、この調査で発見された新種のいせえび（ランゴスタ・チレーヌ）の加工方法について研究中である。

③ 大西洋岸におけるいせえび漁業およびえび漁業の発展計画

いせえび漁業に従事している現在の漁船は小型であるため大型化して遠距離の未開発漁場へ進出できるようにし、えびトロール漁船についても操業能率を向上させるため、大型化を推進する計画である。

III) 漁業制度

1960年12月20日付け法令第557号による漁業開発に関する特別法において、各行政部門の所管する事項、輸出向けおよび国内向け生鮮事業の免許制、免許の条件（1970年3月一部改正）、漁期・漁具・漁法の制限、かめの捕獲に関する制限、免許の申請人、免許の所持人に対する保証金納付、税金、国家利益配当（1964年8月28日付けで一部改正）、商業漁獲開発のための輸入関税・漁獲に対する一切の税金等の優遇措置等を定めており、また、いせえびの漁獲については、1963年11月2日付け政令第2号および1964年10月2日付け政令第19号をもつて太平洋岸の特定水域（マイスグランデ島、マイス・ペケニア島の25海里以内）において操業できる漁船の資格、卵を有するものおよび体長20センチメートル以下のものの採捕禁止を定めている。

なお、諸申請手続きに関しては天然資源の開発に関する一般法の規程が適用されることとなっている。

IV) その他の制度等

労働に関しては労働法があり、1日の労働時間は、日中8時間、夜間は7時間で、超過勤務手当は午後8時まで倍額、それ以降は3倍

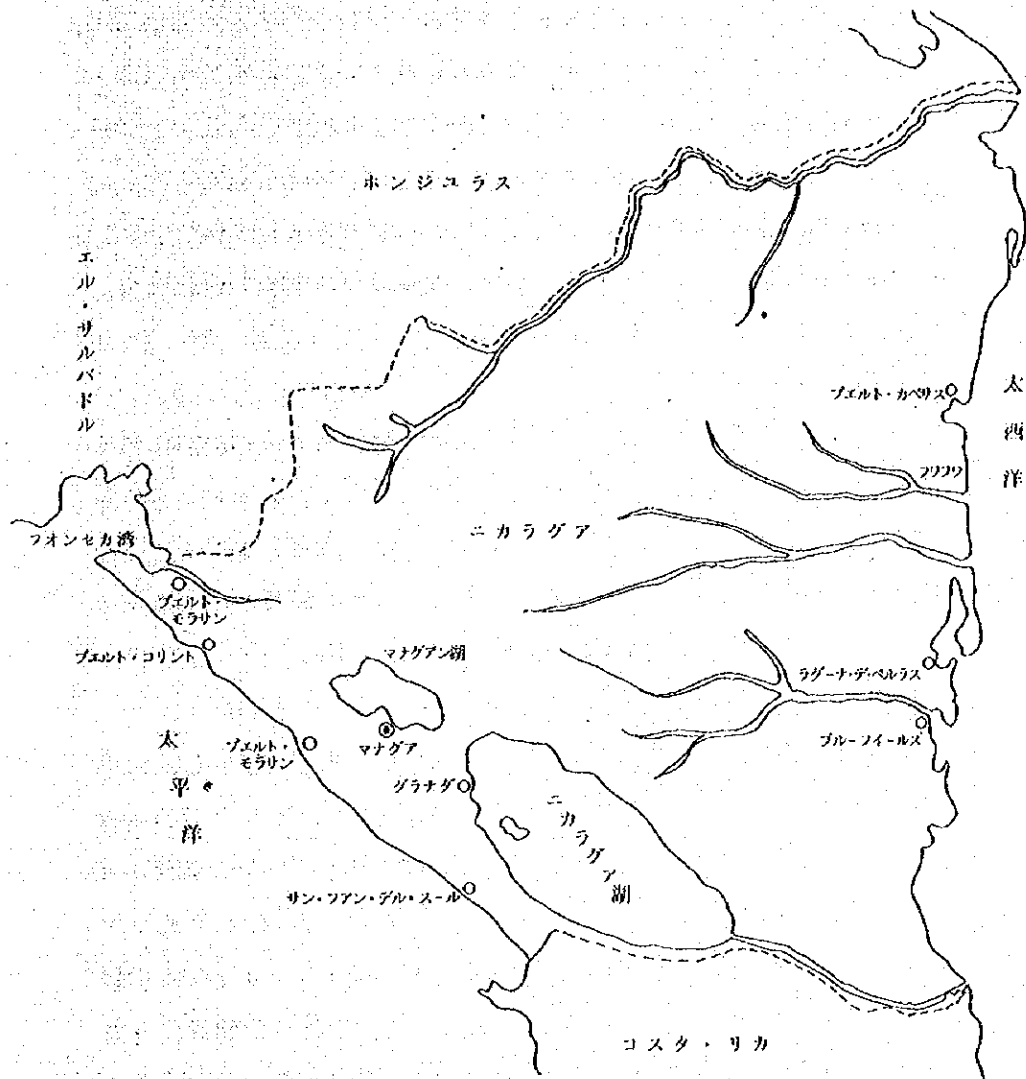
となつてゐる。また、賃金は週給制で日曜日は無給であるが、日曜就労の場合は代休を与えるか通常の賃金の倍額を支払うことになつてゐる。ただし、海上の漁撈作業の場合は例外で、例えばえびトロール漁業の例では船長が会社に対して操業上の一切の責任を負い、船長は漁獲量に応じて会社から報酬を受取り、船長はその報酬の中から食費、船員に対する支払いを行なう仕組みになつてゐるもので労働法の一般原則は適用されていない。

漁業者の組織としての漁業協同組合といった制度は設けられていない。ただ、プエルト・モラサンにおいては部落漁業の近代化、加工設備の設置等の動きとも関連して漁業者間のまとまりの動きがあり、68年から米国の平和部隊が1人この地へ派遣されて市場および組合の設立に関して助言を与へてゐる。

水産に関する政策金融は INFONAQ の金融部で扱つており、政府の施策に合致したものに対して優先的に貸出しを行なつてゐる。

水産に関する技術教育、学校教育、および試験研究の機関制度は全くない。

ニカラグァ略図



(9) 行政と施策

I) 行政機構

この国の漁業行政およびその実施機関は三つの部門すなわち経済省、勸業院 (INFONAC) および農業省にわかれている。輸出を主目的とする企業的漁業は経済省 (天然資源局漁業部) の所管に属し、勸業院は独立した機関として産業開発の推進を図るための政策立案と実際の活動を行なう部門であり、同院産業局漁業部が担当している。農業省は職人的漁獲、スポーツ漁獲、科学的漁獲並びに魚族の保護監督、増殖、新種族の導入を所管している。

II) 当面の漁業施策

1965年～69年にわたつた国家経済社会開発5カ年計画に続く第2次計画はまだきまつていないが、現在米国へミッションを派遣して検討中である。しかし、経済省内では、73年乃至74年までにわたる社会経済開発計画案がすでにできており、漁業部門としては次のINFONACの3つの開発計画がおりこまれている。

① ニカラグア湖開発計画

ニカラグア湖の水産資源を開発して淡水魚の生産を拡大し、国内消費および中米5カ国に対する輸出に向けるため、まずその基礎的な調査を行なうこととし、71年1月から2カ年にわたる計画が実施されようとしている。この調査のために長さ38 feet (総トン数、7.8トン～10トン程度) の調査船1隻を30,000ドルの費用でメキシコで建造中であり、また、米国から魚類、生物学、商業的操業および流通の分野における3名の平和部隊の援助を受けることになつている。

② 太平洋岸におけるいせえび資源開発調査

1966年から6カ年間にわたるFAOの中米漁業開発計画が資金量600万ドルをもつて実施されており、30トン級の調査船4

Ⅱ コスタ・リカの漁業概況

1. 国の概要

(1) 位 置 コスタ・リカ共和国は、太平洋と大西洋にはさまれた地峡国で、北はニカラグア、南はパナマと接しており、北緯10度、西経84度の線が同国のほぼ中心を走っている。

(2) 面 積 同国の面積は50,900K²がわが国の約7分の1であり、九州と四国の合計よりやや小さい。

(3) 地 勢 中央に西北から東南にかけて山脈が走っており、この国の中央部に平均標高約1,000メートルの高原台地を形成している。大西洋側海岸は平坦単調で、沼沢地が多く、太平洋側は山系が海岸近くまで迫り、海岸線は変化に富んでいる。

なお、北緯5度30分、西経87度00分の洋上にガラパゴス諸島の最北端の島ココ島を領有している。

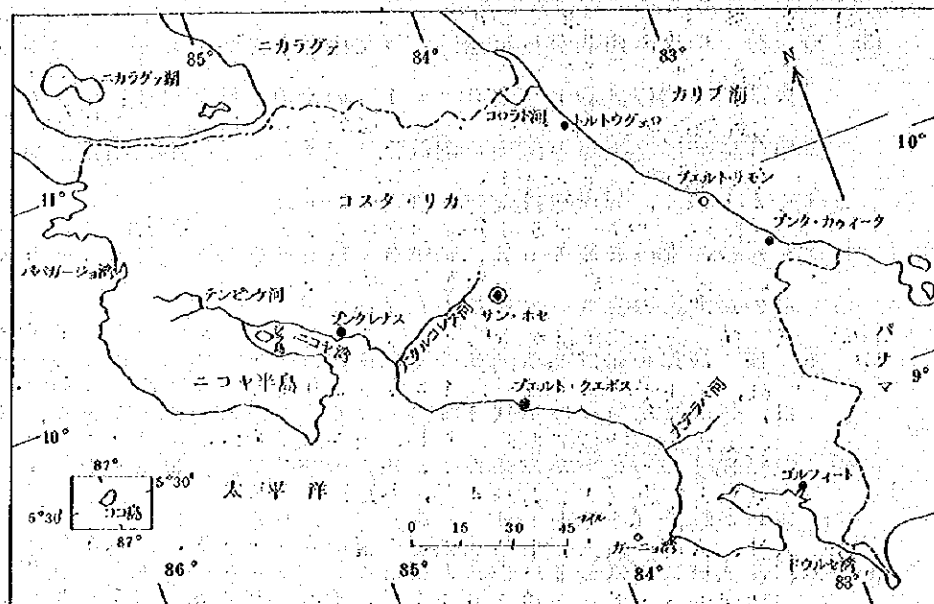
(4) 気 候 海岸地帯は熱帯的気候であるが、主要都市の多い中央台地では、年間平均気温は摂氏14度～20度と温和であることが、当国の気候上の特色である。なお、当国の季節は、雨期(5月～11月、夏)と乾期(12月～4月、冬)に分かれる。

(5) 人種、人口 白人および白人との混血人97.6%、黒人1.89%、原住民0.33%、黄色人0.12%、その他0.05%(1958年)で、白人および白人とその他の人種との混血人の占める比率が極めて高いことが特徴である。1967年の1,000人当たり出生率は39.2(日本19.4)と高く、また乳児死亡率は1966年に69.9(日本19.3)と高いのが目立っている。

人口は、1968年に164万人と推定されている。その約7割が中央台地に集まっており、首都サン・ホセ市は20万人、サン・ホセ首都圏は40万人の人口である。

(6) 歴史 コスタ・リカの原住民は、チュロテカス、ゲタロス、コスト等の種族で、原始的文明を有していた。

1502年にコロンブスがリモン港に上陸した。以後、スペイン人が植民を始め、1539年にコスタ・リカ（富める海岸）と命名された。1542年スペインはグアテマラ大守領を設立し、コスタ・



リカを同守領に合併した。1821年にグアテマラ大守領がスペインからの独立宣言を行なった際、コスタ・リカも独立宣言を行なったが、翌年他の中米諸国とともにメキシコ帝国に併合された。

1823年メキシコ帝国の瓦解により、現中米5箇国は中米連邦共和国を結成したが、1838年コスタ・リカは、同連邦共和国から

独立を宣言した。しかし、共和国としての完全な独立宣言は、
1848年であつた。

(7) 政治 コスタリカは立憲民主代議政治の確立した共和国であり、
ラテンアメリカ諸国中、政情は最も安定している。

その特色は、①憲法の規定により、軍隊を保有せず、比較的豊で
あり、文民政治が確立していること、②教育が徹底し、学校が多く、
文盲率が1963年度都市で8.1%、農村で28.5%と中米で最も
低いととがあげられ、そのほか人種構成が白人系をもつて安定して
いて、国民は平和を愛好しており、政情も安定している。中米のパ
ラダイスと称されているゆえんである。

(8) 経済 コスタリカの1968年の1人当たり国民総生産は、464
ドルで、中米5箇国中最も高く、富の分配も比較的平均している。
経済の基盤は農牧業であり、農業は国内総生産の29%を占めてい
る。主要産物はコーヒー、バナナ、砂糖で、輸出総額の68%を占
めている。

(9) 国際収支 近年の国際収支は毎年悪化をたどっており、貿易収支の恒
常的な赤字は資本収支の黒字により補足されてきたものの、総合収
支の赤字幅は、1966年には1,000万ドルに達し、1961～
66年の間の累積赤字は2,409万ドルに達した。

(10) 外国為替制度 従来、經常支払または資本振替には制限なく、すべて
の取引は対米ドル相場6.6コロンで決済されていたが、1967年
から、輸入必需品リスト記載品目、中米諸国およびパナマを原産地
とする商品の輸入等定められたものを除き、為替の売却を中止して
いる。これらに該当しない場合は、自由に自由市場で自由レートで
ドルを購入し輸入することができる。

(11) 外国投資 1959年に産業保護促進法を制定し外資の導入を奨励し
ている。電力、道路の公共投資は、国際機関の融資により行なわれ

Costa Rica

ている。民間部門に対しては、主として製造工業と農業部門に外国から直接投資が行なわれている。当国における外資の大部分は米国のものであり、最大のものはユナイテッド・フルーツ社で、バナナの栽培を行なっている。最近ではバナナ資本の進出が目立っている。

漁業の分野では、従来、漁船の輸入に制限があり、本船は輸入できなかったが、鋼船は輸入できなかった。しかし、法律改正により、

1971年1月からは輸入できるようになる。また、漁業の分野における外資導入は、300万ドル（10億8,000万円）までは認められるようになった。

(12) 中米共同市場 1951年に、国連ラテンアメリカ経済委員会が「中米5箇国が経済統合を進め、またこの目的のために中米地峡経済協力委員会を設置することを希望する。」旨の決議を行ない、1963年には「中米経済統合に関する一般条約」のもと、5箇国は共同市場設立のため出発した。そして、域内貿易の自由化、関税統一、物・人・資本の移動と通商貿易の自由化、共通産業政策、共通金融政策等落實に経済統合を進めている。

(13) わが国との関係 工業化の速度がはやくなるため、機械類、プラント類等域外からの輸入が増加すると考えられるので、わが国にとつてはプラスの面もある。しかし、将来は域内の軽工業の発達によりわが国からのそれら輸出品は減少するものとみられる。

2. 漁 業

(1) 現 況 ①太平洋側の大陸棚の幅は、広いところで40km、狭いところで15km、平均30kmで狭い。海岸線は変化に富んでおり、岸寄りのところは各種えび、バルゴ（Pargo、たいに似た魚）等が分布している。北部にはパバカージョ湾（Golfo de Papagayo）があり、そこからニコヤ湾（Golfo de Nicoya）にかけて、底質

は、砂、泥で、ピンクえび (*Oamarón Rosado*)、アルメハ (*Almeja*; あさりに似た貝)、チョーラ (*Chora*) という長さ 30 cm 位の貝がとれる。注目すべきことは、北部の得とんの河がニコヤ湾に流入していることであり、湾の奥にはテンビスケ河というコスタリカ最大の河が注いでいる。また、湾口には大タルコレス河があり、これら河川により、中部太平洋岸は淡水の影響を受けている。ニコヤ湾は最深部は 5.0 m あるが、大抵 5~10 m の浅い湾であり、湾の岸にはマングローブ樹が繁っており、種々の魚類がみられる。とくに大型のえびが多い。プンタレナスの海岸は潮流の関係で砂が集まり、砂の岬ができて入江になつており、海面がおだやかであるため、当国最大の漁業根拠地となつている。プンタレナスはプンタレナス州の州庁所在地で、太平洋岸最大の商港でもある。ここには 70 隻のえび漁船の得か、職人的漁民がカヌーで操業している。なお、ニコヤ湾内でのトロール漁業は禁止されている。

湾内には、コルビーナ (*Corvina*; けべに似た魚) がおり、職人的漁民が、海岸から 100~150 m 位のところで地びき網によりそれをとっているが、刺し網、包囲網も使用されている。ニコヤ湾外、太平洋岸中部等においてはえび (*Oamarón Blanco* および *Oamarón Oafé*; ホワイトえびおよびブラウンえび) をとっている。太平洋南部には、テラバ河という支流を多くもつた河が注いでおり、大陸棚は泥状である。この水深 200 m から 300 m にかけて、小型のえび (*Oamarón Solenocera (Fidel)*; ソレノセラえびまたはフィデールえび) が分布していることが最近発見された。

また、カニン島の付近から沖合にかけては深海のえびがいる。これら、太平洋側中、南部海岸では、大型、小型のえびをトロールで漁獲している。最南部のドゥルセ湾 (*Golfo Dulce*) は湾奥に傾斜の急な深みがあり、湾口東部でえびを、西部でいせえびをとつ

ている。なお、太平洋岸中部から南部にかけてチンチエカ (Chinche)・ヘンゲ (Henga)・ピアングア (Piangua) というほたてがいに似た貝があり、また、ニコヤ湾内シラ島にはメヒジロン (Mejillon) という貝の一種がとれる。太平洋岸一帯は、コスタ・リカの漁業資源の供給地となっており、プンタレナスは漁船、加工工場の根拠地であり、水産物の多くはここから内陸に供給されている。

②カリブ海側 (大西洋側) は大陸棚が狭く、熱帯域であり、沖から暖流が岸に向い、南に流れ、漁業資源は貧しいといわれている。カリブ海側の海洋調査は当国では行なつたことがなく、漁民からの伝聞によつてゐる。海流は常時、北から南に海岸線に沿つて流れ、岸では速く沖合ではゆるやかである。カリブ海側の海岸線は単調であり、海底は砂および泥である。ただ、リモン湾 (Puerto Limon) およびカウイタ岬 (Punta Cahuita) の2箇所に岩があり、後者ではさんごがとれる。カリブ海側の主要漁獲物は、かめといせえびである。これら2種とも定着性のものではない。いせえびは、北から南に回遊してきて12月～1月にリモン港の岩場に集まる。かめは、6月～8月が盛漁期で、トルトゥグエロ (Tortuguero) にはかめの保護機関がある。いせえびもかめも南下の途中に漁獲される。

いせえびはかごにより漁獲し、かめは鉈やヤスで突いて漁獲する。えび (Camarón) については、領海内には商業ベースに乗るような資源がなく、群が小さいので、職人的漁民の漁獲対象になつてゐる。その他の魚種も極めて少量であり、バルゴ (Pargo) たいに (似た魚)、ティブロン (Tiburón) さめの一種) 等も漁獲されているが量的には少ない。カリブ海岸ではリモン港が最大の漁業根拠地であるが、コスタ・リカの漁獲量の1%も水揚げされていない。

③内水面漁業についてはほとんどみるべきものがない。当国には冷淡水に生息する魚類がいなかつたので、米国およびメキシコから

人等は中央部河川にヒメマスを移殖した。カリブ海岸に沿つて走る小河川
にはサバロ (Sabalo) マスの一種) がいて、スポーツ・フィッシ
ングの対象となつている。また、ティラピアも分布している。

(2) 漁業経営体等 当国においては、漁業は産業的 (もしくは商業的) 漁
業と職人的漁業とに分けて考えられており、両者の区別をどの程度
の規模で線を引いて識別しているのが行政当局者の説明によつても必
ずしも判然としないが、要するに前者は輸出能力のあるもの、後者
は零細漁家により行なわれるものといえよう。また、当国において
漁民は個人主義的色彩の強い国民性からして漁民は協同の精神に欠け漁
業協同組合は未だかつて設立されることがない。かつて、米国のケ
ネディ大統領の時代に当国の漁業協同組合設立のため、50万～
2000万米ドルのクレジット (返済期限20年、利率4%) を
提供しようとしたが、当国漁民はそれを受け入れなかつた。

①会社組織の漁業経営体は、主として米国の資本が入つて設立さ
れたものが多く、当国漁業の主要部分は、これらにより行なわれて
いるとみてよからう。これら会社の数は37あり、そのうち6社は
冷凍設備を有し、1社は缶詰および塩干品を製造している。これら
企業体等の一覧表は別紙1のとおりである。なお、コスタ・リカの
主要な産業的漁業は、70隻のえびトロール漁船によるものである
が、これらは上記漁業会社に属するもののほかは、個人経営に属する。

②職人的漁民 (零細漁家) の数については、正確な統計資料はな
いが、同国水産課所属漁業監督官、漁業会社等からの聴取に基づき
推定すると、太平洋岸では、

ニコヤ湾内部のゾンタレナスより湾奥	約400人
ニコヤ湾内部ゾンタレナス周辺	約300人
ニコヤ半島西岸中部以北 (コロが中心)	約100人
ニコヤ半島西岸の中部以南	約50人

太平洋岸中部（クエボス港が中心）	約 50人
ドゥルセ港	約 150人
計	約 1,050人

カリブ海側（大西洋側）では、リモン港を中心に100人程度の職人的漁民がいるとみられる（ただし、いせえび漁の盛漁期（12月～4月のうち）には、誰でもいせえびをとるので、漁業に従事するものは約600人に達することもあるという。）。

(3) 漁 船 ①産業的漁業については、太平洋岸プンタレナスに、

えびトロール漁船（フロリダ型）	38～70フィート、95～450馬力 70隻
まぐろまき網（釣り兼用）漁船	285トン 1隻 320トン、800馬力14人乗組1隻 2隻
いわしまき網漁船（3.0トン級等）	3隻が、

カリブ海側リモン港には、

いせえびかご漁船（当国籍を有せず、コスタ・リカの漁業水域（距岸200哩）外で操業するという。米国の救命艇型の長さ4.5フィートおよび6.5フィートのもの各1隻）	2隻
えびトロール漁船	1隻

がみられる程度である。なお、えびトロール船には1隻平均6人の乗組員がいる。

②職人的漁業については、太平洋岸全体に、

動力漁船（モーター付きランチで、主として、コルビーナ（Corvina に近い魚）の漁獲を目的としているもの）	62隻
無動力漁船（カヌー、帆を使用する、一本釣、はえなわ等操業）	約250隻が、

カリブ海側はリモン港を中心に、

カヌー（一部は船外機を用いる。周年専業のもの）	約 50隻
カヌー（いせえびの盛漁期のみ使用されるもの）	約250隻

がみられる。

(4) 漁獲量 F A O の資料によれば、コスタ・リカの近年の年間漁獲量は 4,000 ~ 5,000 トンで極めて少ない。また、近年の主要魚種

年	1938	1948	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960
漁獲量 (単位: 1,000トン)	1.0	1.0	0.6	0.5	0.8	0.8	1.3	1.6	2.9
年	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
漁獲量 (単位: 1,000トン)	3.2	2.7	2.4	3.6	3.4	3.3	3.5	5.0	4.1

別漁獲量(O)、水揚げ量(L)およびそれらの金額をみると、甲殻類のえび類およびいせえびが量的にみて約半分を占めており、金額では、

		量 (単位: 1,000トン)			金 額			
		年	1966	1967	1968	1966	1967	1968
合 計	O		3.3	3.5	5.0	10,609	2,218	\$ (米)
	L		2.6	2.9	4.1	10,669	14,624	¥ (円)
さめ (Piranes)	O		0.2	0.1	0.0	13	7	\$
	L		0.2	0.1	0.0	88	45	¥
未 分 類 魚	O		1.0	1.3	2.3	290	357	\$
	L		1.0	1.3	2.3	1,923	2,366	¥
甲 殻 類	O		1.9	1.9	2.7	1,296	1,853	\$
	L		1.2	1.3	1.8	8,583	12,274	¥
ピンクえび	L		0.1	0.3	0.2	1,617	1,452	¥
ホワイトえび	L		0.4	0.3	0.4	5,283	6,886	¥
ブラウンえび	L		0.6	0.6	0.9	1,083	1,975	¥
い せ え び	L		0.1	0.1	0.3	525	1,961	¥
軟 体 動 物	O		0.0	0.0	0.0	0	0	\$
	L		0.0	0.0	0.0	2	3	¥
い か	L		0.0	0.0	0.0	2	3	¥
か め 等	O		0.2	0.2	0.2	10	1	\$
	L		0.2	0.2	0.2	66	6	¥
か め	L		0.2	0.2	0.2	66	6	¥

ほとんどこれらによつて占められている。なお、同国漁業の大部分が存在する太平洋岸の近年の魚種別、月別水揚げ一覧表 (コスタ・リカ農牧省水産課作成) は別紙2のとおりである。

- (5) 漁獲物の利用配分 同国が熱帯域にあることもあつて漁獲物の半分以上は冷凍に向けられている。FAOの資料によれば同国の漁獲物の利用配分は、下記のとおりである。

(単位: 1,000トン)

	1958	1964	1965	1966	1967	1968年
合 計	1.3	3.6	3.4	3.3	3.5	5.0
生 鮮	0.6	0.7	1.1	1.0	1.3	1.5
冷 凍	0.7	2.8	2.1	2.1	2.1	2.7
塩 蔵	...	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0
缶 詰	...	...	...	...	...	0.7
雑用途	...	...	0.0	0.0	0.0	0.1

- (6) 主要水産物の輸入および輸出 コスタ・リカの水産物輸出の首位は冷凍えび、いせえびであり、1968年には約145万米ドル輸出されている。また缶詰の輸出も量は未だ少ないが次第に増加してきている。反面その輸入は次第に減少している。FAOの最近の資料によれば下表のとおりである。

		輸 入			輸 出		
年		1966	1967	1968年	1966	1967	1968年
生鮮、冷凍甲殻類および軟体類	量 (1,000トン)	0.0	0.0	0.0	1.0	0.9	1.2
	金 額 (1,000米ドル)	8.0	8.0	39.0	1,168.0	1,104.0	1,451.0
缶詰等魚類加工品	量	1.3	1.2	1.0	0.0	0.1	0.2
	金 額	564.0	555.0	496.0	63.0	92.0	138.0
乾燥、塩蔵、燻製魚類	量	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	...
	金 額	5.4	4.4	7.0	3.0	2.0	...
生鮮、冷蔵、冷凍魚類	量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	金 額	1.0	2.0	1.0	7.0	6.0	4.0

なお、わが国と同国との水産物の輸出入関係をみると、水産貿易統計（水産庁漁政部水産課作処）によれば、昭和44年にわが国は、コスタ・リカにかき水煮缶詰および加工養殖真珠を約2,000米ドル輸出し、一方同国からはべつ甲を約5,000ドル輸入している。

(7) 主要漁業の現状と問題点 (1)えび漁業は、コスタ・リカにおける最も重要な漁業である。太平洋側のえび資源には、

ホワイトえびもしくは大型えびと呼ばれるもの（現地名Oamarones blancos または grande）、学名 *Penaeus occidentalis*, *P. stylirostris* および *P. vannamei*、

ピンクえびと呼ばれるもの（現地名Oamarones rosado または pink）、学名 *P. brevirostris*、

小えびもしくはティティと呼ばれるもの（現地名Oamarones pegueños または titis）、学名 *Trachypenaeus* sp., *Prot-trachypenaeus* sp. および *Xiphopenaeus* sp.,

ナイーデルと呼ばれるもの（現地名Fidel）、学名 *Solenocer-ris* sp.,

ブラウンもしくはコーヒーえびと呼ばれるもの（現地名Oamarones on-café）、学名 *P. californiensis*、

ガラテードと呼ばれるもの、
などである。これら主要えび類の水揚量および漁場を別紙3および4にそれぞれ示す。えびトロール漁船は、いわゆるフロリダ型といわれるもので70隻あり、最さる8〜70フィート、機関95〜450馬力のものである。コスタ・リカ政府は、えび資源量およびえび漁業の経営の安定の見地からえびトロール漁船の隻数を増加することには認めていない。えびはこれらえびトロール漁船が98%、職人的漁民が2%とつており、1969年の水揚量は約1,100トン（無頭、からつき）で前年1968年の約1,500トンに比べると大幅な減

産となつている。コスタ・リカ政府はえびトロール漁業の生産性を高め経営の安定を図るため、漁場調査により漁区を沖合に拡大すること、最も収益性が高く合理的な標準船型を定めること等に当面の努力を払つている。太平洋側はこのような限界に近い状態にあり、またカリブ海側（大西洋側）は商業ベースに乗るような大きさのえび資源量がないといわれているので、新漁場、新種の発見がなければ、これ以上の発展は望めないのではないかと考えられる。

②いせえび漁業はいせえびかごにより操業されており、F A O の統計によれば、1968年には300トンの漁獲があつた。大西洋岸では、当国の北にあるニカラグアがいせえびが南下回遊の際、先取りしてしまうので来遊資源量が減少しているという声が聞かれ資源問題が必ずしも樂觀を許さないことが注目され、太平洋岸では、資源が的確に調査されていないこと、かごによる漁獲がうまく行かない等調査研究の余地が大である。

③まぐろ漁業は、ゾンタレナスにある水産缶詰会社「Compañia Enlatadora Nacional S.A」が最近米国から320トンおよび285トンのまぐろまき網・釣り漁船を購入まぐろを漁獲するようになった。この会社は中米唯一のまぐろ漁業会社であり、今後の発展が注目されている。

米国のまぐろ漁業が1920年代から急激に発達し、第2次大戦後はコスタ・リカ沖合にまで漁場を拡大、操業したため、コスタ・リカ漁民を剝削し、米国漁民の締出しを図る措置にまで発展した。そのため、米国はコスタ・リカとの間に東太平洋のまぐろ類の資源保存のための条約を締結することを提案し、1949年に「全米熱帯まぐろ委員会の設置に関するアメリカ合衆国とコスタ・リカ共和国との間の条約」が作成された。この条約には、その後メキシコ、パナマ、エクアドル、カナダが参加し、1969年にエクアドルが

脱退した。条約に基づいて設置された委員会は、1966年からその調査研究の結果に基づき、きはだの総漁獲量制限を実施してきているが、この水域のまぐろ漁業の漁獲努力が最近急増したため、国別割当を導入すべきであるという意見が、一部加盟国から出されている。この水域の日本のまぐろ漁業は、従来はえなわのみに限られておられ、主としてめばち、かじき等を対象として操業してきたため、わが国はこの条約に加入していなかつたが、資源保存には協力するとの立場から自主的に委員会の規制措置を受け入れてきた。しかし、1969年からこの水域ではだを主たる対象としてまき網操業を開始したし、また前述のように委員会が新たな問題に直面していることをも考慮し、漁業における国際協調に貢献するとともに規制措置の決定等の際にわが国の意見を反映させ、将来におけるわが国漁業の安定した発展を図るため、わが国は1970年にこの条約に加入した。

コスタリカの漁業水域が距岸200浬であること、同国には今後まぐろ漁業を輸出産業として発展させようとする実力者がいること、漁業分野の外資導入が300万米ドル(10億8000万円)まで認められたこと、外国からの鋼船輸入ができるようになった等、同国のまぐろ漁業発展の余地は大であり、わが国漁業は良かれ悪しかれ同国の漁業と密接な関係を持つに至つたといえよう。

④職人的漁民による漁業は、主として同国太平洋岸において行なわれており、漁民数はカリブ海沿岸を含めて約1,200人程度と推定される。これら漁民のとる漁獲物は魚類ではサルモナ(Corvina blanco, へべの類で色の白いもの, Corvina reina, 女王へべ), バルゴ(Pargo, たいに似た魚), テイブロン(Tiburón, さめ), カゾン(Cazón, さめ), マカレラ(Macarela, さわらの一種), メロ(Mero, はたの類), フッレル(Jurel, さば), リサ(Lisa,

ほら), カマロン (Oamarón, 各種えび), ランゴスタ (Langosta, いせえび), アルメハ (Almejas, あさり), チョーラ (貝の一種) 等である。その漁獲量は、下記農牧省水産課作成の太平洋、大西洋両岸において食用として生鮮のまま供給された魚類の水揚量の表によれば、近年では全体の約40%, 約500トンが職人的漁民(零細漁民)により漁獲されており、生産性は低い。これら漁民は何れも

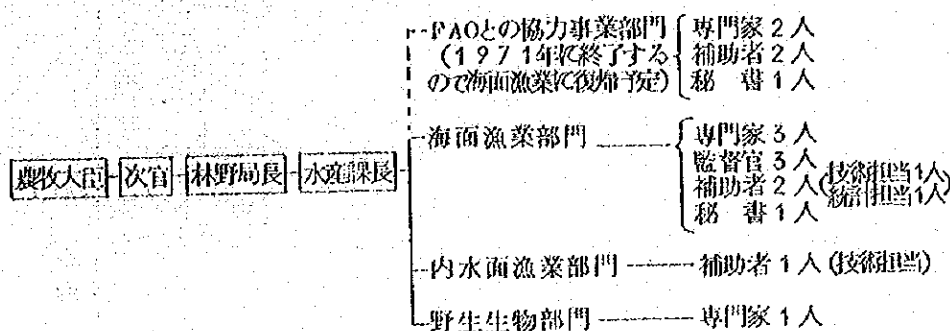
年	合 計	企業体の水揚量		職人的漁民の水揚量	
	トン	トン	%	トン	%
1961~63平均	614	340	55	274	45
1964~66平均	911	507	56	404	44
1967~69平均	1,395	899	63	516	37

資金援助を希望しているが、たとえこれがかなえられたとしても、これら漁民の生産目標が国内消費である以上、急速な発展は望めないものと見られる。それは、コスタ・リカには魚食の習慣が少なく、生鮮魚類および水産加工品の年間1人当たり消費量は下記農牧省資料、またはFAO(国連食糧農業機構)の1人1日当たりたん白質供給量の資料をみても、極めて低く食習慣の変更は短時日をもつて

年	計	生 鮮	缶 詰	燻 製
1951~60平均	1.8 kg	0.6 kg	0.7 kg	0.5 kg
1966~69平均	3.1	1.2	1.5	0.4

はなしとげることが困難であるからである。また、当国漁民は個人主義的色彩が強く、漁業協同組合が未だ設立されていないことも、これら漁民による漁業の発展を妨げている原因の一つであろう。

- (8) 水産行政機関および関係行政機関 ①水産行政機関は幾多の紆余曲折を経て今日に至っているが、以前、水産局であつたものが現在は水産課と実質的に縮小、格下げされた点に特色がある。現機構図は下記のとおりで、農牧省林野局の一課となつている。



- 注：Ⅰ) 専門家とは大学卒業後、水産業に関する経験を積んだ者をいう。
 Ⅱ) 補助者とは高等学校卒業後、水産業に関する技術を習得した者をいう。
 Ⅲ) 監督官には、高等学校卒業もしくは、中途修了者が就任する。
 Ⅳ) ……は命令系統でなく、協力関係を示す。

②国家生産会議 (Consejo Nacional de Produccion; 略称ONP) とは、国家機関で農畜水産物について、生産者には生産費を保障し、消費者には安定した価格で供給を図ることを目的としており、たとえば魚類の例では供給が需要を上回り、値くずれで漁民が生産費をつくなえなくなるおそれのある場合は買い上げ、会議所有の冷蔵庫 (サン・ホセ市内にあり容量30トンのもの2庫、温度-18℃) に収容、凍結貯蔵し、全国に108 (サン・ホセに23) ある直営小売店において、安定した価格により魚類を供給している。

(別紙1)

ニスタ・リカの漁業企業等一覽表

企業等の名称、所在地	政府機関	造船所・修理工場	漁業	協同組合	製造加工			流通	製氷
					冷蔵	生詰・塩干魚	副産物		
1 Altamar, S. A., Puntarenas			X		X				X
2 Alvarez Tejeiro, Antolin, Puntarenas			X						
3 Bonilla Vazquez, Ricardo, Puntarenas			X						
4 Calvo y Aoeveño Ltda., Puntarenas			X						
5 Calvo y Briceño, Ltda., Puntarenas			X						
6 Camaronera de Golfito, Ltda., Golfito					X	X			X
7 Cia Enlatadora Nacional, Ltda., Puntarenas			X		X	X			X
8 Cia Ernest Enos., Ltda., Puntarenas			X						
9 Cia Industrial Alimentos Marinos, S. R. L., Puntarenas					X				X
10 Cia Industrial Mariscos, Ltda., Puntarenas					X				X
11 Cia Interamericana, Ltda., Puntarenas			X						
12 Cia Pesquera Industrial Luchar, Ltda., San Jose			X						
13 Cia Pesquera Lostalo, Ltda., Puntarenas			X						
14 Cia Pesquera San Agustin, Puntarenas			X						
15 Empresa Delmar, S. A., Puntarenas			X						
16 Empresa Pesquera Puntarenas, S. A. Puntarenas			X						
17 Eugenio Garron e Hijos, Ltda., Limon			X		X				X
18 Exportadora de Alimentos, S. A., Puntarenas			X						
19 Frigorificos de Puntarenas, S. A., Puntarenas			X		X				X
20 Guevara, Hector y Carlos Salazar, Puntarenas			X						
21 Guevara Barahone Uladislao, Puntarenas			X						
22 Gutierrez Gutierrez, Calixto, Puntarenas			X						
23 Hielo Moreno, Ltda. Puntarenas									X
24 Hielo Frio, Ltda., Puntarenas									X
25 Industria de Pesca, S. A., Puntarenas			X						
26 Lostalo F., Daniel, Puntarenas			X						

企業名等の名称、所在地

企 業 名 稱 及 所 在 地	政 府 機 關	造 船 所・修 理 工 場	漁 業	秘 魯	製 造 加 工			流 通	製 氷		
					冷 凍	缶 詰	産 物				
27 Mariscos del Caribe, Ltda., Limon			X	X	X				X		
28 Moreno Arellano, Emilio, Puntarenas			X								
29 Moreno Arellano, Miguel, Puntarenas			X								
30 Moreno Borrás, Alvaro, Puntarenas			X								
31 Moreno Borraé, José Luis, Puntarenas			X								
32 Muñoz Gonzalez, Jesus, Puntarenas			X								
33 Novoa Gorgona, Oscar, Puntarenas			X								
34 Novoa Novoa, Miguel Angel, Puntarenas			X								
35 Paris Chaverri, Fernando, Puntarenas			X								
36 Perez Calderón, Fernando, Puntarenas			X								
37 Pesca y Mariscos, S. A., Puntarenas			X								
38 Phillips Berahona, James, Puntarenas			X								
39 Proyecto Regional Desarrollo Pesquero C. A.	X										
40 Sección de Pesca y Vida Silvestre, Minist. Agricultura y Ganaderia, San Jose	X										
41 Sociedad Moreno Enos., Ltda. Puntarenas			X								
42 Sociedad Pesquera Don Jorge Ltda., Puntarenas			X								
43 Suces, Marino Jimenez, Puntarenas			X								
44 Talleres Manley Ltda.		X									
45 Van Baelen Rockens, Francoise			X								
計			2	1	37	0	8	2	—	8	3

出典：コスタ・リカ農牧省水産課「DIRECTORIO DE EMPRESAS E INSTITUCIONES PESQUERAS

EN LOS PAISES DEL ISTMO CENTROAMERICANO（中央アメリカ地味諸島の漁業会社）」中コスタ・リカ分および諸漁業の便覧

注：今回の日本調査団の調査結果に基づき、一部修正を加えてある。

(別紙2)

コスタ・リカ太平洋岸魚種別・月別水揚量(1969年)

魚種	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ホワイトえび 1)		22,946	11,079	16,875	10,022	8,035	8,420	10,021	8,402	8,315	9,658	18,206	25,524	157,503
ピンクえび 1)		41,320	51,231	43,722	12,602	16,274	16,875	20,018	23,451	31,930	30,350	22,796	28,043	338,612
小えび 1)		33,681	45,03	9,786	13,698	12,264	22,626	22,126	33,750	83,155	103,032	126,746	146,284	611,651
えび計		97,947	66,813	70,383	36,322	36,573	47,921	52,165	65,603	123,400	143,040	167,748	199,851	1,107,766
最上級の魚 2)		10,701	11,298	11,867	13,215	8,330	15,448	9,802	8,437	57,115	50,64	7,033	4,836	111,746
分類された魚 2)		27,047	23,979	23,424	23,990	27,380	26,038	22,934	18,770	21,600	21,586	31,777	28,109	298,642
2等級の魚 2)		62,078	61,387	90,014	74,990	52,684	57,966	50,088	45,715	46,379	45,999	49,363	55,612	692,275
さめ(Cazón)		15,058	15,571	20,882	17,102	26,678	24,426	21,500	15,586	18,789	17,171	8,964	16,045	217,772
さめ肉(Posita Tiburón)		11,513	20,731	20,238	14,688	16,884	15,139	11,621	11,982	12,224	6,556	10,097	7,721	159,094
計		126,397	132,966	166,425	143,685	131,956	141,017	115,945	100,490	104,715	96,376	107,234	112,323	1,479,529
他の魚類製品		236,121	106,630	132,448	129,355	115,498	155,073	156,693	251,443	264,751	209,968	605,298	37,040	2,400,318
いか(Oafamar)		24	31	26	109	73	284	70	24	10	145	693	104	1,593
いせえび 3)		1,514	410	575	873	643	53	52	14	285	-	31	51	4,501
砂地いせえび 3)		16	9	14	48	83	35	24	-	5	-	48	29	311
餌料		12,428	-	-	45	-	-	-	-	-	-	-	3,297	15,770
Oambute 4)		-	76	379	549	-	-	-	-	97	-	-	57	1,158
Chuchecas 貝 4)		-	-	-	14,000	12,000	28,000	13,000	17,000	-	8,000	12,000	-	104,000
かめ		-	-	-	54	-	-	-	32	-	-	-	-	86
Almejas あさり 5)		-	-	-	18	-	-	-	-	-	3	5	5	148
いぼたがき 5)		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
まぐろ 6)		-	-	12,950	23,709	-	-	17,73	380,68	60,74	321,82	-	-	1,147,56
ひれさめ(Aleta Tiburón)		-	-	-	-	-	-	-	601	-	-	500	-	1,101
小いせえび		-	-	-	-	-	-	-	-	642	-	-	-	642
いがい 4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	500	-	-	500
Pianguas 貝 4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,000	-	-	16,000

注：1) 無頭，からつき(kg)，2) 内臓除去(kg)，3) 無頭(kg)，4) 尾数，5) ガロン，6) トン

出典：コスタ・リカ農牧省水産課資料

(別紙3)

種別、年別えび水揚量(無頭、からつき)

(単位：キログラム)

年	ホワイト	ピンク	ティティ	計
1952	43,244	--	--	43,244
1953	50,629	--	--	50,629
1954	55,876	--	--	55,876
1955	15,907.8	--	--	15,907.8
1956	19,943.7	--	39,525	238,962
1957	85,878	--	80,622	166,500
1958	35,364.5	--	62,723	416,368
1959	49,203.5	--	122,646	614,681
1960	20,582.0	51,185	234,242	491,247
1961	38,043.1	64,003	542,011	986,445
1962	27,001.3	199,832	556,664	1,026,509
1963	29,544.6	167,372	607,380	1,070,198
1964	57,173.4	87,186	614,483	1,273,403
1965	27,248.9	145,791	735,473	1,153,753
1966	35,226.9	150,158	642,998	1,145,425
1967	35,115.1	254,687	577,721	1,183,559
1968	38,259.2	220,169	927,794	1,530,555
1969	157,503	338,612	611,651	1,107,766

出典：コスタ・リカ農牧省水産課 Eduardo Bravo P. 著

「LA PESQUERIA DE OAMARON EN COSTA RICA(コスタ・リカのえび漁業)」

ニカラグア



